



JASDAQ

平成 27 年 8 月 7 日

各 位

会社名 株式会社大日光・エンジニアリング
代表者名 代表取締役社長 山口 侑男
(JASDAQ・コード 6635)
問合せ先
役職・氏名 代表取締役副社長兼務経営企画室長
為崎 靖夫
電話 (0288)26-3930

業績予想との差異に関するお知らせ

平成 27 年 2 月 12 日に公表致しました平成 27 年 12 月期(平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日)第 2 四半期連結業績予想と、本日公表致しました第 2 四半期決算短信におきまして下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 27 年第 2 四半期連結業績予想値と第 2 四半期決算短信における実績値との差異 (平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	15,500	60	30	20	7.49
今回修正 (B)	17,173	△22	△44	△79	△29.87
増減額 (B-A)	1,673	△82	△74	△99	△37.36
増減率	10.8%	-	-	-	-
(ご参考) 平成 26 年 12 月期 第 2 四半期実績	16,657	259	176	66	25.23

2. 差異の理由

売上高は、日本は一部社会生活機器用で受注が増加しましたが、アジアはオフィスビジネス機器用の実需停滞等から生産は緩慢に推移しました。一方、円安に伴い、円貨ベースでの売上高は増加し、17,173 百万円（期初予想比 10.8%増）となりました。

損益面では、日本は社会生活機器用で需要停滞から減産となった機種の影響が大きく減益となりました。中国でも売上停滞、中国最低賃金引上げ等によるコストアップから減益、タイでは持分法適用会社が本格稼動に至っておらず損失計上しており、営業利益△22 百万円（期初予想比△82 百万円）、経常利益△44 百万円（期初予想比△74 百万円）となりました。

上記に加えて、中国子会社において既存設備の見直しを行い固定資産売却損・除却損を計上した結果、四半期純利益△79 百万円（期初予想比△99 百万円）となりました。

以上